

# 「保育者論」テキストから捉える 保育者の資質向上とキャリア形成の教授内容

小島 好美†1

(令和4年12月3日査読受理日, 研究論文)

## Teaching Contents of preschool teachers Growth and Career Formation as Perceived from the Textbook of "Theory of preschool teachers "

Kojima, Yoshimi

(Accepted for publication 3 December, 2022, Research Article)

### 要約

本研究は、保育士養成講義科目「保育者論」における「保育者の資質向上とキャリア形成」の教授内容について、講義テキストとして出版されている書籍から、その具体的内容を捉え、明らかにすることを目的とした。対象22冊のテキストを分析すると、資質向上に関する組織的取組としての研修、保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義にあたる、保育者の成長発達の様相とキャリアアップの仕組み、組織とリーダーシップの教授内容である、園組織のリーダーシップの在り方、以上が明らかになった。

### Abstract

This study examines the teaching content of "improvement of qualities and career development of preschool teachers" in the "Theory of preschool teachers" a course for training preschool teachers, and capture and clarify the specific contents of books published as textbooks. Training as an organizational effort from 22 textbooks, and growth and development of preschool teachers and mechanisms for career advancement, and, the leadership of organization was clarified.

キーワード：保育者論, 保育者の専門性, 保育者のキャリア

Key words: theory of preschool teachers, expertise of preschool teachers, career of preschool teachers

## 1. 問題と目的

「保育者論」は平成23年度(2011年度)より保育士養成課程に新設された科目である。それまでは「保育原理」のなかで保育者の責務や専門性として扱われていた内容が独立し、現代社会における保育者の役割を学び、理解を深める科目として設けられた。新設にあたり平成21年より実施された保育士養成課程等検討会にて検討が行われ、平成22年(2010年)3月24日付「中間まとめ」<sup>1</sup>では現行の「保育原理」に含まれていた保育士の役割と責務、制度的位置づけ及び多様な専門性をもった保育者(看護師・栄養士等)の協働などについて学ぶことが重要であるため「保育者論」を新設するとされた。特に「児童福祉法第18条の4における保育士の定義や、保育士に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの保育と保護者支援を担う保育士の専門性について学ぶ科目とする。」と報告された。

その後、平成29年(2017年)12月、保育士養成課程等研究会は、保育を取り巻く社会情勢の変化、保育所保育指針の改定等を踏まえ、保育士養成課程を構成する教科目や、養成

課程の見直しに伴う、保育士試験の科目の見直しを図った結果を「保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)報告書」<sup>2</sup>にまとめた。そして、保育者論の教授内容は、表1の通り改正され現在に至っている。

「保育者論」改正においては、2017年10月、第8回保育士養成課程等検討会のなかで、保育者としての資質向上に関する内容の充実、職員の質の向上について、「より組織的な運営の下で自己研鑽を行うことの重要性に鑑み、関連する教科目の教授内容の充実を図る。具体的な対応案として、現行の保育者論の教授内容について、組織的な施設運営の下でのキャリアアップの重要性、また、他の保育士等との協働に関しての理解を深めることができるよう、組織的な体制や取り組みに関する内容を含め、教授内容の充実が必要」<sup>3</sup>という見直しの方向について検討された。

保育の本質・目的に関する科目「保育者論」の目標については、改正前「1. 保育者の役割と倫理について理解する 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する 3. 保育士の専門性

†1 東京家政大学子ども学部子ども支援学科

表1 保育士養成課程科目「保育者論」改正前後内容

改正後【保育の本質・目的に関する科目】<教科目名>保育者論（講義・2単位）	改正前【保育の本質・目的に関する科目】<教科目名>保育者論（講義・2単位）
<目標> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。	<目標> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の協働について理解する。 5. 保育者の専門職的成長について理解する。
<内容> 1. 保育者の役割と倫理 (1) 役割・職務内容 (2) 倫理 2. 保育士の制度的位置付け (1) 児童福祉法における保育士の定義 (2) 資格・要件 (3) 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等 3. 保育士の専門性 (1) 保育士の資質・能力 (2) 養護及び教育の一体的展開 (3) 家庭との連携と保護者に対する支援 (4) 計画に基づく保育の実践と省察・評価 (5) 保育の質の向上 4. 保育者の連携・協働 (1) 保育における職員間の連携・協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携・協働 (3) 地域における自治体や関係機関等との連携・協働 5. 保育者の資質向上とキャリア形成 (1) 資質向上に関する組織的取組 (2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 (3) 組織とリーダーシップ	<内容> 1. 保育者の役割と倫理 (1) 役割 (2) 倫理 2. 保育士の制度的位置づけ (1) 資格 (2) 要件 (3) 責務 3. 保育士の専門性 (1) 養護と教育 (2) 保育士の資質・能力 (3) 知識・技術及び判断 (4) 保育の省察 (5) 保育課程による保育の展開と自己評価 4. 保育者の協働 (1) 保育と保護者支援にかかわる協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携 (3) 保護者及び地域社会との協働 (4) 家庭的保育者等との連携 5. 保育者の専門職的成長 (1) 専門性の発達 (2) 生涯発達とキャリア形成

について考察し、理解する 4. 保育者の協働について理解する 5. 保育者の専門職的成長について理解する」から、改正後、「1. 保育者の役割と倫理について理解する 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する 3. 保育士の専門性について考察し、理解する 4. 保育者の連携・協働について理解する 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する」となった。前述の通り、第8回保育士養成課程等検討会(2017)<sup>4</sup>において「保育者論の教授内容について、組織的な施設運営の下でのキャリアアップの重要性、また、他の保育士等との協働に関しての理解を深めることができるよう、組織的な体制や取り組みに関する内容を含め、教授内容の充実が必要」という方向が示され、改正後は特に「5. 保育者の資質向上とキャリア形成」について理解する、目標及び内容に重点が置かれたことが分かる。改正前、目標「5. 保育者の専門職的成長について理解する」に対応する内容として「5. 保育者の専門的成長 (1) 専門性の発達 (2) 生涯発達とキャリア形成」が示されていたが、改正後、目標「5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する」に対応する内容は「5. 保育者の資質向上とキャリア形成 (1) 資質向上に関する組織的取組 (2) 保育者の専門性の向上とキャリア形成

の意義 (3) 組織とリーダーシップ」となり内容の充実が図られたことは一目瞭然となった。現代社会において多様な役割を期待される保育者が資質向上に努め、園という組織を基盤に専門性を育み、キャリア形成することの意義が示唆されていることが分かる。

保育者養成校において多くの学生たちは、幼稚園教諭免許、保育資格に関わる単位を修得し卒業と同時に幼稚園教諭免許、保育士資格を取得、その後、社会に出て保育者としての一步を踏み出すこととなる。平成30年5月、保育教諭養成課程研究会・日本保育者養成教育学会における、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について<sup>5</sup>では「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程は両者、就学前の幼児を対象として教育及び保育を行う人材を養成する観点から、そのカリキュラムには共通に開設できる科目がいくつかある」とし、留意事項をまとめている。保育者論についても例外でなく、留意事項を踏まえ共通科目として開設することができることとされた。野津・宮川(2020)<sup>6</sup>は、保育者論テキスト冒頭において「教職課程コアカリキュラム」「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」の対応表から「幼稚園教諭免許取得

のための教職課程コアカリキュラムにおける『各教科に含めることが必要な事項:教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)』及び『一般目標:1.我が国の今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する 2.教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する 3.教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する 4.学校の役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する』という内容を、保育者論の科目で教授する」とし、幼稚園教諭免許取得科目と保育士資格取得科目において共通に開設できる保育者論の科目説明を示している。なお「保育者」という用語は「幼稚園教諭」を含み広い概念として一般的に使われていると説明されている。養成校卒業後、幼稚園教諭として、または、保育士として、あるいは保育教諭として、いずれの立場で勤務するにあっても「保育者論」における学びは重要となることが考えられる。将来、園組織のなかで、他の保育者、職員と共に保育を営み、子どもの育ちを支える役割を担うにあたり、「保育者論」改正の重点となった「保育者の資質向上とキャリア形成」について養成段階から理解を深めることは意義深いと考える。

以上から、本研究では「保育者論」における内容「5.保育者の資質向上とキャリア形成(1)資質向上に関する組織的取組(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義(3)組織とリーダーシップ」の教授内容について、講義テキストとして出版されている書籍からその内容を捉える。各テキストは各著者の専門的視点から記載内容が検討され、それぞれに共通の内容を含む一方、扱われる具体的事項は多様である。このことを鑑み、前述の(1)～(3)を示す具体的内容として、共通する取り組みや内容を明らかにすることを本研究の目的とする。

## 2. 方法

平成30年(2018年)保育士養成課程科目「保育者論」目標及び内容改正後に出版され、保育士養成課程用に編纂、改訂されたテキストの収集を行った。インターネットを利用し「Webcat Plus(国立情報研究所NII提供)」及び国内書籍流通サイト「Honya Club」にて検索し、入手可能であった22冊を分析の対象とした。分析対象テキストは表2の通りである。

各テキストの目次を総覧し「保育者論」科目内容「5.保育者の資質向上とキャリア形成(1)資質向上に関する組織的取組(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義(3)組織とリーダーシップ」が含まれる各章、各章内の節、項の内容を整理した。各節における各項の内容については「5.保育者の資質向上とキャリア形成(1)資質向上に関する組織的取組(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義(3)組織

とリーダーシップ」との関連性を吟味し、明らかに内容を含む項のみを対象として扱った(表3)。

表3において各章内に含まれる内容欄では、(1)資質向上に関する組織的取組に該当する節、項をAとし、(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義に該当する節、項をB、そして、(3)組織とリーダーシップに該当する節、項をCとし、各テキスト内の節、項がどの内容にあたるか表記した。アルファベットA,B,Cそれぞれの節、項の記載内容から共通する具体的取組み、内容を抽出した。

## 3. 結果と考察

22冊のテキストから「保育者論」における科目内容「5.保育者の資質向上とキャリア形成(1)資質向上に関する組織的取組(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義(3)組織とリーダーシップ」と関連する章、節、項を整理した結果は表3の通りとなった。この結果から「(1)資質向上に関する組織的取組(A)」「(2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義(B)」「(3)組織とリーダーシップ(C)」「(1)～(3)それぞれに共通する内容や具体的取組みとして、各書籍から明らかになった内容は次の通りである。

### 3.1 資質向上に関する組織的取組

「資質向上に関する組織的取組」の教授内容については、保育所保育指針(2017)<sup>7</sup>「第5章1(2)保育の質の向上に向けた組織的な取組 保育所においては、保育の内容等に関する自己評価等を通じて把握した、保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育内容の改善や保育士等の役割分担の見直し等に取り組むとともに、それぞれの職位や職務内容等に応じて、各職員が必要な知識及び技能を身につけられるよう努めなければならない。」ということ、また、幼稚園教諭免許取得のための教職課程と併せた開講を鑑み「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない(教育基本法第9条)」という内容、その他「教育公務員特例法」における「初任者研修」「中堅教諭等資質向上研修」「教員免許更新制」について触れられていた。資質向上に関する組織的取組は、様々な形態の研修参加による自己研鑽を通して保育者としての資質を磨き、高めていくことが示されていた。そして、資質向上に関する組織的取組の方法として、研修の種類、研修への参加姿勢等が述べられている。

#### 【資質向上に関する組織的取組:園外研修】

資質向上に関する組織的取組として「園外研修」について示されていたテキストは17冊<資料番号:1,2,4,5,7,8,9,10,11,13,14,16,17,18,20,21,22>であった。園外研修については、園、施設が積極的に保育者を外部研修の場へ送り出し、一人ひとりの保育者の資質向上を

目指し、組織から送り出す「初任者研修」「新規採用教員研修」「中堅教諭等資質向上研修」役職に応じた「園長研修」「主任研修」、保育士対象の「保育士等キャリアアップ研修」が挙げられていた。また、園外研修の主催主体として、地方自治体や保育関連団体、幼稚園関連団体、認定こども園関連団体が紹介され、その内容は、講師講演、ワークショップ、公開保育、事例報告などであることが示されていた。

園外研修については、組織的取組という枠に留まらず、保育者個人の関心に応じて、個人で申込み、参加する自主研修についても挙げられていた。いわゆる、夏季休暇や冬期休暇を利用した自己研鑽であり、個人の意識に委ねられるもの

である。園外研修への積極的な参加は、資質向上に関する組織的取組として、保育者を目指す学生に教示する内容に値する。ただし、園外研修参加の諸費用等について触れているテキストは見当たらなかった。組織が費用を負担し、研修に出るという仕組みや、個人研修であれば、その費用は自己負担となる。人材育成としての投資をどのように返還するのか、外部研修の重要性と共に、社会の中で組織に属し研修を受け、資質向上を目指すにあたっての基礎知識にも及する必要があると考える。

表2 分析対象テキスト一覧

資料番号	書籍名	出版社	著者	発行年月日
1	新版 保育者論	一藝社	谷田貝公昭・石橋哲成[監修]谷田貝公昭[編著]	2018年3月
2	子どもの心によりそう保育者論(改訂版)	福村出版	佐藤哲也[編]	2018年3月
3	新しい保育講座2 保育者論	ミネルヴァ書房	汐見稔幸・大豆生田啓友[編著]	2018年4月
4	子どもの豊かな育ちを支える保育者論	ミネルヴァ書房	田中利則[監修]五十嵐裕子・大塚良一・野島正剛 [編著]	2018年5月
5	保育者論 保育職の魅力発見!	みらい	渡辺桜[編]	2018年4月
6	保育者論(三丁)	建帛社	民秋言[編著] 青木久子・上田哲世・関口はつ江・矢藤誠慈郎[共著]	2018年10月
7	新・基本保育シリーズ 7 保育者論	中央法規出版	公益財団法人児童育成協会[監修]矢藤誠慈郎・天野珠路[編著]	2019年2月
8	MINERVAはじめて学ぶ保育3 保育者論	ミネルヴァ書房	名須川知子・大方美香[監修]山下文一[編著]	2019年2月
9	シートブック三訂 保育者論 2019年度保育士養成課程・教職課程対応	建帛社	榎田二三子・大沼良子・増田時枝[編著]	2019年3月
10	新時代の保育双書 今に生きる保育者論(第4版)	みらい	秋田喜代美[編集代表]西山薫・菱田隆昭[編集]	2019年3月
11	保育者論 子どもの未来を拓く保育者の役割	光生館	北野幸子・山下文一・柿沼芳枝[編著]	2019年3月
12	アクティベート保育学02 保育者論	ミネルヴァ書房	大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸[編著]	2019年4月
13	幼稚園教諭・保育士のための現代保育者論(改訂版)	大学図書出版	浅見均・田中正浩[編著]	2019年10月
14	新保育ライブラリー 保育・福祉を知る 保育者論(第3版)	北大路書房	福元真由美・笠間浩幸・柏原栄子	2020年3月
15	子どもと共に育ちあうエピソード保育者論 第2版	みらい	井上孝之・山崎敦子[編]	2020年4月
16	保育者論 主体性のある保育者を目指して	萌文書林	野津直樹・宮川萬寿美[編著]	2020年4月
17	保育者論(第4版) 共生へのまなざし	同文書院	岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹[監修]榎沢良彦・上垣内伸子[編著]	2020年4月
18	子どもとともに未来をデザインする保育者論・教育者論	わかば社	田中卓也・松村齋・小島千恵子[編]	2020年10月
19	保育者論 共感・対話・相互理解	萌文書林	関口はつ江・田中三保子・西隆太朗	2021年4月
20	コンパス保育者論	建帛社	上野恭裕・米谷光弘[編著]	2021年4月
21	増補版これからの保育者論 日々の実践に宿る専門性	萌文書林	高橋貴志	2022年1月
22	保育者論	溪水社	西川ひろ子・中原大介[編]	2022年2月

表3 保育者論テキスト「保育者の資質向上とキャリア形成」一覧

資料番号	保育者の資質向上とキャリア形成 該当の各章	各章に含まれる内容 A (1)資質向上に関する組織的取組 B (2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 C (3)組織とリーダーシップ
1	第6章 保育者の専門性	B 第1節 保育者の専門性とは何か
	第11章 保育者の研修・服務	A 第1節 成長し続ける保育者を目指して B 第2節 保育者としてのキャリア形成のための研修
2	第4章 保育者に求められる専門性と人間性	B 1. 専門職としての保育者 B 2. 保育を支える人間性 B 3. 子どもの発達を理解 B 5. リフレクションの重要性
	第6章 保育者の資質・能力－資質の向上へ	A 1. 保育者としての資質・能力の基本 A 3. 保育者が育つ環境とは
	第13章 保育者の専門的成長	B 1. 保育者に求められるもの B 2. 保育技術の向上 B 3. 命を預かる保育者の使命 B 4. 多様な子どもとの出会いと保育者の対応
3	第8章 保育者の専門性って何だろう	B 1. 専門性というのはどういう意味だろう B 2. 引き出しをたくさん持っていることが専門性のひとつ B 3. かかわり方の専門性 － 子ども自身の没頭保障とそれを支える安心感,信頼感 B 4. 文化と文明の違い,そして文化的な実践の大事さ B 5. 「クラスの倫理的な雰囲気」をつくることと専門性 B 6. 赤ちゃんだって倫理的雰囲気を感じる B 7. 一生かけて専門性を高めていこう
		A 第1節 保育者の経験(成熟度)による役割の変化 C (1)階層別の役割と責任(新人,中堅,主任,園長,施設長) A 第2節 保育におけるOJTとOFFJT 第3節 保育者の専門的成長 B (1)専門性の発達 B (2)生涯発達とキャリア形成
4	第7章 保育者のキャリア形成	第1節 保育者の資質向上とは A 1. 保育者に求められる資質 B 2. 保育者のキャリア 第2節 保育者の研修 A 1. 研修の方法 A 2. 園内研修(OJT) A 3. 園内研修(OFF-JT) A 4. 園内研修と外部研修とのつながり
5	第8章 保育者の成長	B 2. 専門性の習得 B 3. 研究する保育者 B 4. 職業人としての保育者
6	第7章 いま、保育者に求められるもの	Step1. A 1. 資質向上とは A 2. 個々の保育士の資質向上のために A 3. 組織的な取り組み A 4. 組織的な取り組みを支える同僚性 Step2. A 1. 職員間の連携・協働と同僚性 A 2. 園内研修による資質向上の取り組み A 3. 省察的実践家としての保育士 A 4. 幼稚園、認定こども園 Step3. A 1. 園内研修で同僚性を高める A 2. 園内研修の実践例 A 3. 園内研修を行う際の工夫や配慮
7	第13講 資質向上に関する組織的取組	Step1. B 1. 保育者としての専門性の向上 B 2. 保育者の専門性 B 3. 保育者の倫理観 B 4. 保育者としての成長発達段階 B 5. 専門性の向上をうながす Step2. B 1. 保育士のキャリアパスと専門的成長 Step3. B 1. 保育所におけるキャリア形成 B 2. キャリアの中断と継続
	第14講 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	Step1. C 1. 保育所保育指針における職員の資質向上の基本 C 2. 保育所保育指針におけるリーダーの役割 C 3. 研修機会を提供する C 4. 研修を効果的に計画する Step2. C 1. 保育におけるリーダーシップの基盤 C 2. リーダーシップの技法 C 3. 保育におけるリーダーシップのあり方 C 4. 省察的なリーダー Step3. C 1. マネジメントとは C 2. 保育の質の向上へのマネジメント C 3. 組織のプロセスをマネジメントする
	第15講 保育におけるリーダーシップ	Step1. C 1. 保育所保育指針における職員の資質向上の基本 C 2. 保育所保育指針におけるリーダーの役割 C 3. 研修機会を提供する C 4. 研修を効果的に計画する Step2. C 1. 保育におけるリーダーシップの基盤 C 2. リーダーシップの技法 C 3. 保育におけるリーダーシップのあり方 C 4. 省察的なリーダー Step3. C 1. マネジメントとは C 2. 保育の質の向上へのマネジメント C 3. 組織のプロセスをマネジメントする
8	第5章 生涯学び続ける保育者	レッスン15. 保育者集団の一員として A ①保育者に求められる資質 A ②経験年数による課題と役割、立場 A ③保育集団としての組織力向上
9	第7章 学び,成長する保育者	2. 専門性・資質向上の取り組み B (1)制度のなかでの専門性向上のための学び B (2)保育者としての専門性向上－保育実践のなかでの学び A (3)保育者集団の質の向上のための取り組み C (4)組織とリーダーシップ
	第8章 保育者のキャリア形成と生涯発達	B 1. 幼稚園における保育者 B 2. 保育所における保育者 B 3. 幼保連携型認定こども園における保育者 B 4. 児童福祉施設における保育者

(注)各章に含まれる内容(1),(2),(3),をA,B,Cとして区分している

資料番号	保育者の資質向上とキャリア形成 該当の各章	各章に含まれる内容 A (1)資質向上に関する組織的取組 B (2)保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 C (3)組織とリーダーシップ
10	第6章 保育者の資質向上とキャリア形成	第1節 資質向上のための組織的な取り組みとしての研修 A 1-園外研修 A 2-園内研修 A 3-自主研修 第2節 保育者の専門性の発達とキャリア形成 B 1-省察と保育者の専門性の発達とキャリア形成 B 2-保育者の専門性の発達 B 3-キャリアアップのための研修制度 第3節 チームとしての保育とリーダーシップ C 1-チームとしての保育と園長の資質 C 2-保育におけるリーダーシップ C 3-園長と主任のリーダーシップ
11	第10章 保育者の専門性	①保育者の専門性 C 8.園長など管理職が発揮するリーダーシップ ④保育者の専門性向上に関する国の動向 A 1.学び合い,高め合う教員コミュニティの構築 A 2.「チーム学校」の必要性
	第11章 キャリアステージを見通した保育専門職の育ちと学び	B ①保育専門職としてのキャリアステージ -各ステージで身につけたい資質・能力- ②キャリアアップと研修 B 1.研修の重要性 B 2.キャリアアップ研修について
	第12章 保育者の専門性の維持・向上	A ②保育実践の質の維持・向上に不可欠な研修 A ③保育者の専門性の維持・向上の方法
	第13章 これからの保育者の専門職化	A ①日本の保育者研修制度の現状 B ②日本の保育者研修とキャリアの現状
12	第12章 保育者の専門性	A 1.専門家として育つ A 2.協働で学び合う専門家集団
13	第7章 保育者のネットワークと研修	A 1.保育者の資質・能力の向上 B 2.専門性の向上 B 5.保育者のキャリアアップ
14	第6章 保育者集団と職場づくり	A 1節 保育者集団の一員として A 2節 幼児教育における保育者の権利
	第7章 自己改革ができる保育者・園の課題	B 1節 保育の学びは子どもから始まる-学びへの渴望 B 2節 ささまざまな学習の機会との出会い B 3節 みずからの保育・園の活動の見直し B 4節 自己改革を求め続けて
15	第9章 保育者の専門的成長 -人が人を教えることの意味-	B 第1節 保育への姿勢と専門性の深化-子どもの育ちを見つめる- B 第2節 生涯発達とキャリア形成
16	第13章 保育者としての葛藤	A 2.資質向上に関する組織的な取り組み-様々な研修 B 3.保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 C 4.園長としてのリーダーシップ
17	第6章 保育者としての成長	A 2.自分の保育をふり返る,ひらく B 3.同僚と共に,学び続ける
18	第13章 保育者・教育者に必要な研修	B 1.保育者としての専門性の向上とキャリア形成 A 2.研修の種類と内容
19	第12章 保育者の専門性向上と研修	B 1.保育者としての専門性の向上とキャリア形成 B 2.保育者のキャリアアップ
20	第7章 保育者の資質向上とキャリア形成	C 1.組織とリーダーシップ B 2.保育者の専門性の向上とキャリア形成 A 3.保育者の資質向上に関する組織的取り組み
21	第7章 保育者の専門性を高めるために	A 01.保育者になるまでの学び A 02.保育者になってからの学び
22	第10章 保育者の資質向上	A 第1節 資質向上とは何か-保育者としての資質- A 第2節 保育者間の連携・協働と同調性 A 第3節 保育者の組織的取り組みとしての園内研修
	第11章 保育者のキャリア形成	B 第1節 保育者の専門性の向上 B 第2節 保育者のキャリア形成の意義 C 第3節 保育におけるリーダーシップ

(注)各章に含まれる内容(1),(2),(3),を A,B,C として区分している

**【資質向上に関する組織的取組：園内研修】**

資質向上に関する組織的取組として「園内研修」について示されていたテキストは 18 冊（資料番号：1, 2, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 20, 21, 22）であった。園内研修の意義について箕輪（2019）<sup>8</sup>は「保育者自身が保育における見方・認識を再構築することに意義があり、自らの子どもへのかかわり方の特徴を捉え直すこと、自分なりの見方や考え方をさらにより深く、他に開かれたものにし再構築するとともに自分でつくり出し修正できる保育観を育み、保育者の暗黙の認識を再構築することが出来る機会である。更に、園全体のコミュニケーションを図り、保育者同士がともに育ち合うことができる。コミュニケーションを通して知が共有され、自分でつくりだし修正できる保育観を育み、子どもとの関係だけでなく、他の保育者との関係の中で自分の保育の特徴を知る機会だ（資料番号 10. p107）」と述べている。保育者にとっての資質向上とは、決して一人でできるものではない。普段の保育実践においても、対、人、子ども、保護者の存在があり、相手と関わり、経験し、省察を通して学ぶ。資質向上に関する組織的取組とは、園全体で保育の質、保育者の資質を向上させることであり、園内研修は有効な手段として、保育者論のテキストに記載される傾向にあった。保育施設は公立、法人立合わせ、多様な特色をもつ園が存在する。各園の保育の良さ、保育の課題は、その園の保育者が最も知るところであり、保育内容、保育実践、子どもたちのこと、保護者について、安全管理についてなど、保育の質、保育者の資質向上に関わる取組みは、誰かに任せてはならないところであろう。保育者がその意識をもち、自身の保育と自園の保育の魅力を繋ぎ合わせ、他の保育者と協働して保育の質を向上させる園内研修について、保育者論のテキストを通じ、保育者を目指す学生に教授されていた。

**【資質向上に関する組織的取組を支える同僚性】**

保育者論のテキストで示されていた、資質向上に関する組織的取組の内容として、研修に関する内容が該当すると明らかになったと同時に、有意義な研修にするための「保育者の同僚性」についても並行して示されていた。12 冊（資料番号：2, 4, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 17, 20, 21, 22）のテキストに共通する内容があった。

滝川（2019）<sup>9</sup>は「保育所保育指針に示される『保育の課題の共通理解』『職員同士が主体的に学び合う姿勢』をもつためには、日頃から自分の課題や園の課題を気軽に相談したり、職員間で対話を通して子どもや保育者の様子を共有したり、保育の中で見られた子どもの姿を肯定的に語りすることができる同僚性が育まれることが必要である（資料番号 7. p152）」と述べ、資質向上のために互いに支え合い、高め合う関係性を同僚性と示した。この同僚性によって、研修の場が支えられ、また、逆に研修の場で同僚性が育ま

れるともいえる。保育者同士が豊かな同僚性を育むために、対話や語り合いは欠かせない。対話や語り合いを通して豊かな同僚性が育まれることが示されていた。保育者同士が対話し、語り合う時には、経験年数などを越え、それぞれが置かれた立場を理解し合い、自分の保育を見つめ考える姿勢をもつことが教授内容として捉えられ、保育者養成の段階から、職場における同僚性について学び、理解を深めることの重要性が明らかになった。

**3.2 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義**

「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」の教授内容については、保育者としての専門性を保育経験と共に磨き、成長する過程を「初任」「中堅」「熟達」と段階的なモデルで示し、学生が専門職キャリアを見通せるような内容と、2017 年、厚生労働省から示された「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」による、保育士のキャリアアップ研修が対象テキストから共通の内容として捉えられた。

**【保育者の専門性と成長発達段階】**

「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」の教授内容において、まず、専門性については、保育者としての省察を絶えず実践を通して行うことで育まれると示すテキスト（資料番号 15. p150）や、保育記録、エピソードから、子ども理解、保育者としての気づきに焦点を当てるテキスト（資料番号 12. p210）、また、保育所保育指針解説（2018）<sup>10</sup>に示される、保育士に求められる主要な知識及び技術について示すテキスト（資料番号 7. p163）等々、共通する内容を絞ることが難しい幅広さがあった。ここでは保育所保育指針解説に示される専門性から教授内容の考察を行いたい。以下表 4 に「保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）第 1 章保育所に関する基本原則」から抜粋した内容を示す。

表 4 保育士の専門性

保育士に求められる主要な知識及び技術： 保育士の専門性
①これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術
②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術
③保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の境を構成していく知識及び技術
④子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術
⑤子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術
⑥保護者等への相談、助言に関する知識及び技術

専門性①～⑥すべての末尾は「知識及び技術」となっていることが分かる。知識のみを身につけているだけでなく、技術が伴うこと、技術は実践や経験から磨かれ、また、知識も実践経験によって増えていくことを踏まえると、専門性は養成段階のみで身に付くものではなく、保育者になり、保育の仕事を通じて獲得していくものであることが、専門性の具体から捉えることが出来る。保育者論テキストの中では、専門性は養成段階から始まり、保育者になってから広がり、深めていくものであることが述べられ、免許や資格取得が決してゴールではないことが示されている。保育者の専門性の広がりや深まりと併せて、保育者論テキストでは、保育者として、どのように成長、発達していくか示されており、その発達段階モデルとして、秋田（2000）<sup>11</sup>におけるVander Ven K.の発達段階モデルを加筆修正したものが資料番号7, 10, 20>に取り上げられていた。この発達段階モデルは「第1段階:実習生・新任の段階」「第2段階:初任の段階」「第3段階:洗練された段階」「第4段階:複雑な経験に対応できる段階」「第5段階:影響力のある段階」の5段階によって構成されている。このモデルは、発達のいくつかの側面から段階を区切っており、子ども理解や指導の在り方、同僚との関係の築き方、子どもを取り巻く社会への働きかけ、等がどのように発達していくか捉えることができる。保育者養成段階にある学生が、保育者としての成長、発達段階を見通せることは、専門職に就くそれぞれの未来に期待を高め、こうなりたいというモデル形成に繋がるのではないだろうか。また、キャリア形成に対するイメージを抱きやすいことから、就職後のライフプランについても多様な考えを巡らせることに繋がっていくことが考えられる。

#### 【保育士等キャリアアップ研修の実施】

「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」について共通して扱われていた内容は「保育士等キャリアアップ研修について」であり、テキスト11冊<資料番号7, 9, 10, 11, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 22>が該当し、2017年4月、厚生労働省「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」<sup>12</sup>で述べられたように、体系的な研修のガイドラインが示されていた。各園におけるリーダー的な保育士を育成するための研修が構成され、その内容は「専門分野別研修【乳児保育】【幼児教育】【障害児保育】【食育・アレルギー対応】【保健衛生・安全対策】【保護者支援・子育て支援】」があり、対象者は、保育現場で専門分野に関してリーダー的な役割を担う保育士である。「マネジメント研修【マネジメント】」の対象者は、前述の専門分野でリーダー的役割を担う経験があり、主任保育士のもとでミドルリーダーの役割を担う保育士である。「保育実践研修【保育実践】」の対象者は、保育現場における実践経験が少ない（保育士試験合格者や潜在保育士等）者である。このように3つの柱から構成されたキャリアアップ研修は、一人ひとりの保育士が、園組織内において担う役割を認識し、それに応じたスキルを身に付け、

専門性の向上とキャリアパスが結び付いていくことが目指されると示されていた。保育者養成段階にいる学生たちが保育士のキャリアアップの仕組みについて知識をもつことで、卒業後も学び続ける意識を維持することに繋がるのではないかと考えられる。学生たちが経験する保育実習では、現場の保育士が専門性を発揮し、子どもたちと関わる姿や、保護者への対応に、憧れや尊敬の気持ちを抱くことがあるだろう。現場に出てからも学びを継続しキャリア形成することの意義は、講義で学び、原体験と通じるかたちで学生の中に落とし込まれるのではないだろうか。

### 3.3 組織とリーダーシップ

保育者論テキストにおける「組織とリーダーシップ」についての内容は、前述「資質向上に関する組織的取組」「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」が占める割合に及ばず、表3からも分かるように、その記載（A, B区分表記に対しC表記の割合）は比して少ない傾向が見られた。そのなかで、テキストから捉えられた内容は、園長や主任保育者が発揮する「園組織におけるリーダーシップの在り方」であった。

#### 【園組織におけるリーダーシップの在り方】

保育所保育指針（2018）<sup>13</sup>第5章2.施設長の責務と専門性の向上(2)職員の研修機会の確保等において「施設長は、保育所の全体的な計画や、各職員の研修の必要性等を踏まえて、体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員の勤務体制の工夫等により、職員が計画的に研修等に参加し、その専門性の向上が図られるよう努めなければならない。」と示されている。リーダーシップの在り方として「研修機会の確保」が挙げられていた。矢藤（2019）<sup>14</sup>は「園長には、園の保育の質や保育者の専門性向上のために必要な環境を確保することとして、『体系的・計画的な研修機会』を保育者に提供することが求められている」と述べた。園内研修、園外研修を織り交ぜ、公開保育などの機会を設けるなど、自園の保育をより良くする場をコーディネートする力がリーダーシップの在り様として示されていた。

園組織内のリーダーシップの在り方として、モデルとなる、海外の研究結果を示したテキスト<資料番号10, 22>では、シラージ, L・ハレット, E, 鈴木正敏・淀川裕美・佐川早季子訳（2017）「育み支え合う保育リーダーシップ」<sup>15</sup>による「保育における効果的でケア的なリーダーシップ実践モデル」が紹介され、「方向付けのリーダーシップ【共通のビジョンをつくり上げること】【効果的なコミュニケーション】」「協力的なリーダーシップ【チーム文化の活性化】【保護者の協働を促す】」「エンパワーメントするリーダーシップ【主体性を引き出す】【変化の過程】」「教育のリーダーシップ【学びをリードする】【省察的な学びをリードする】」が具体的なリーダーシップの在り方として挙げられていた。そして、リーダーシップは園長のみが図るものでなく、園組



織に属する保育者が分散して担うことが効果的であるという「分散型リーダーシップ」についても触れられ、分散型リーダーシップの実践はチームで保育をする機能を高めると示されていた。

保育者論のテキストにける「組織とリーダーシップ」の教授内容は、保育者を目指す学生へ、保育者として働く自分を支えてくれるリーダー像を描かせるのではないだろうか。同時に園組織の在り方を学び、将来、園組織に属した時の自分自身の在り方も想像できる内容となっていた。

#### 4. 総合考察

保育者論のテキストにおける、「保育者の資質向上とキャリア形成」の教授内容には、「資質向上に関する組織的取組」としての園内・外における研修の在り方、内容、研修を支える同僚性について示されていた。また「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」については、保育者の専門性の多様な育み方と保育者の成長はどのような段階をもつのか、各ステージについて示され、そのステージをステップアップしていく仕組みのひとつとして、保育士等キャリアアップ研修の実施について明示されていた。そして「組織とリーダーシップ」については、園組織におけるリーダーシップの在り方が述べられていた。

保育者の資質向上とキャリア形成に着目し、保育者論のテキストを総覧すると、養成校における学びが土台となり、保育者は成長し続けるということ、免許や資格取得がゴールではなく、学び続けることにより専門性が磨かれ、資質向上につながる、その為の研修制度の在り様や、研修機会の提供という責務を果たす園長のリーダーシップが重要であることが明らかになった。

「保育者論」における「保育者の資質向上とキャリア形成」の教授内容は、学生にとって、「今」ではなく「未来」「将来」についての内容が多い。現職の研修制度に触れたり、キャリアはどのように繋がり発達するのかという内容、そして、園長のリーダーシップである。先のことだからとリアリティを失わず、実感を伴う学びの場をつくる工夫として、保育士養成課程等検討会（2010）<sup>16</sup> 中間報告、養成施設の質の確保と向上に示された内容を踏まえ、現役の保育者をゲストティーチャーとして迎えるなど、実践の場からの声を届けること等が豊かな学びの可能性をもつと考える。

「保育者の資質向上とキャリア形成」の教授内容は、保育者養成校の学生に、保育者として働くことを想像させ、保育者の専門性の育み方を知り、保育実践を通して磨かれるということの理解につながるだろう。保育者論における学びは、保育者に学びの終わりではなく、専門職に就き人生を築いていくことへのプランニングの始まりだと捉えられ、数年後、子どもたちの前に立つ自分をイメージし、そこから理想とする保育者像を膨らませ、近づいていくステップを学生

なりに描く、保育者論の教授内容は、その基盤の一部となり得るのではないだろうか。

#### 5. 今後の課題

「保育者の資質向上とキャリア形成」の教授内容を保育者論テキストをもとに、その具体を明らかにしていったが、今後は、保育者論における体系的な学びを保育者論を構成する内容の全体構造から捉えていくことを課題としたい。

#### 引用文献

- 1) 厚生労働省(2010)保育士養成課程等検討会 保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)
- 2) 厚生労働省(2017)保育士養成課程等研究会 保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)報告書[別添1]保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について
- 3) 厚生労働省(2017)保育士養成課程等研究会 保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～(検討の整理)報告書
- 4) 前掲3)
- 5) 保育教諭養成課程研究会・日本保育者養成教育学会(2018)幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について
- 6) 野津直樹・宮川萬寿美[編著](2020)保育者論主体性のある保育者を目指して 萌文書林
- 7) 厚生労働省(2017)保育所保育指針
- 8) 箕浦(2019)新時代の保育双書今に生きる保育者論(第4版)秋田喜代美[編集代表]西山薫・菱田隆昭[編集]みらい
- 9) 滝川(2019)新・基本保育シリーズ7保育者論公益財団法人児童育成協会[監修]矢藤誠慈郎・天野珠路[編著]中央法規出版
- 10) 厚生労働省(2018)保育所保育指針解説
- 11) 秋田喜代美(2000)「保育者のライフステージと危機一ステージモデルから読み解く専門性」発達(83)ミネルヴァ書房 p.48-52
- 12) 厚生労働省(2017)保育士等キャリアアップ研修ガイドライン
- 13) 前掲7)
- 14) 矢藤(2019)新・基本保育シリーズ7保育者論公益財団法人児童育成協会[監修]矢藤誠慈郎・天野珠路[編著]中央法規出版
- 15) L・ハレット, E, 鈴木正敏・淀川裕美・佐川早季子訳(2017)「育み支え合う保育リーダーシップ」明石書籍
- 16) 前掲1)

#### 参考文献

- ・谷田貝公昭・石橋哲成[監修]谷田貝公昭[編著](2018)新版 保育者論 一藝社
- ・佐藤哲也[編](2018)子どもの心によりそう保育者論(改訂版)福村出版
- ・汐見稔幸・大豆生田啓友[編著](2018)新しい保育講座2 保育者論 ミネルヴァ書房
- ・田中利則[監修]五十嵐裕子・大塚良一・野島正剛[編著](2018)子どもの豊かな育ちを支える保育者論ミネルヴァ書房
- ・渡辺桜[編](2018)保育者論保育職の魅力発見!みらい
- ・民秋言[編著]青木久子・上田哲世・関口はつ江・矢藤誠慈郎[共著](2018)保育者論(三丁)建帛社
- ・公益財団法人児童育成協会[監修]矢藤誠慈郎・天野珠路[編著](2019)新・基本保育シリーズ7保育者論中央法規出版

- ・名須川知子・大方美香[監修]山下文一[編著](2019)MINERVAはじめて学ぶ保育3 保育者論 ミネルヴァ書房
- ・榎田二三子・大沼良子・増田時枝[編著](2019)シートブック三訂 保育者論 2019 年度保育士養成課程・教職課程対応 建帛社
- ・秋田喜代美[編集代表]西山薫・菱田隆昭[編集](2019)新時代の保育双書今に生きる保育者論(第4版)みらい
- ・北野幸子・山下文一・柿沼芳枝[編著](2019)保育者論子どもの未来を拓く保育者の役割 光生館
- ・大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸[編著](2019)アクティベート保育学02 保育者論 ミネルヴァ書房
- ・浅見均・田中正浩[編著](2019)幼稚園教諭・保育士のための現代保育者論(改訂版) 大学図書出版
- ・福元真由美・笠間浩幸・柏原栄子(2020)新保育ライブラリー 保育・福祉を知る 保育者論(第3版)北大路書房
- ・井上孝之・山崎敦子[編](2020)子どもと共に育ちあうエピソード保育者論第2版 みらい
- ・野津直樹・宮川萬寿美[編著](2020)保育者論主体性のある保育者を目指して 萌文書林
- ・岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹[監修]榎沢良彦・上垣内伸子[編著](2020)保育者論(第4版)共生へのまなざし 同文書院
- ・田中卓也・松村齋・小島千恵子[編](2020)子どもとともに未来をデザインする保育者論 わかば社
- ・関口はつ江・田中三保子・西隆太朗(2021)保育者論 共感・対話・相互理解 萌文書林
- ・上野恭裕・米谷光弘(2021)コンパス保育者論 建帛社
- ・高橋貴志(2022)増補版これからの保育者論 日々の実践に宿る専門性萌文書林
- ・西川ひろ子・中原大介[編](2022)保育者論 溪水社